

## オーストラリア ブドウの栽培に最適な天候が期待される

FreshPlaza 2023年9月20日

この数年の予測不能で雨の多い天候パターンは世界中のブドウ生産者にとって厳しいものであり、オーストラリアの生産者もその例外ではなかったが、今年は良い年が期待されている。オーストラリアのブドウの収穫は10月下旬にクイーンズランド州で始まり、輸出シーズンの最盛期は12月または1月に始まる。

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコット会長は、「過去3年間、オーストラリアと世界中で、確かに天候が良くなかった。オーストラリアでは、雨が多く、湿度も高く、これはオーストラリアの主産地では珍しいことであり、ブドウの成熟と色付きに影響し、甘さに影響することもあった。酸もなかったのも味は良かったが、少し物足りないものであった」と述べた。(以下「」は同会長の発言)

しかし、今シーズンについては、冬の夜が非常に寒く、日中は完璧な日差しがあつて最適な天候であるため、同会長は楽観的である。「春の天候は完璧であった。既に発芽しており、夜は涼しく昼間は暑いブドウの栽培に最適な天候を期待している。収穫量を予測するのは時期尚早であるが、多くの人が発芽が非常に均一であると言っており、これはすべての品種を通じて良い作柄となる優れた兆候である。」

オーストラリアは世界中の市場にアクセスを有しているが、日本向けの追加品種のアクセスと、米国向けのプロトコルの改善を獲得しようとしている。同会長は、「政府間で協議を行っており、今後数年のうちにこれらの市場の改善が得られることを望んでいる」と結論付けた。

執筆者: ニコラ・マクレガー

## 南アフリカ産オレンジ EU市場で関税に負けないほどの需要

FreshPlaza 2023年9月20日

南アフリカ気象局は月曜日(18日)、2つ並んだ寒冷前線が大潮と重なり南アフリカの沿岸部に大きな影響を与えたと発表した。ある船会社の情報筋は、同社では巨大な波が「大問題」であったとして、「先週末、テーブル湾では6~7メートルのうねりがあったので、船は外洋のうねりから守られているセントヘレナの入り江に移動した」と言い、一方、寒冷前線自体は大きな問題ではなかったと付け加えた。(次の項で「」は同人の発言)

### 今日ケープタウン港の外にいない船は免税期限に間に合わない

タイミングは微妙である: 10月(16日)から11月30日までに欧州連合(EU)に到着する南アフリカ産のオレンジには4.3%の関税が適用される。「うねりの影響で、弊社はEU向けオレンジの輸送スケジュールを変更せざるを得なかった。10月14日までに到着しなければならないので、通常は9月27日か28日に出航する。これだとまだ1週間あるが、悪天候のため港の混雑が激しくなっている。ケープタウン港外の船舶の待ち時間が4~5日なので、すでに週の大部分を失ったことになり、その後も非冷蔵貨物(電子機器、自動車部品など)を船から降ろす必要がある。」

混雑を避けるため、一部の船はケープタウン港をスキップしている。「このため、今日ケープタウン港の外にいない船は予定通りに停泊できず、関税免除の期日に間に合う航海ができない。弊社の船は時間どおりに運航できると確信している。」では、欧州のバイヤー達は心配しているのか? そんなことは全くない。

### バイヤーは関税を気にしない

ある輸出業者は、「欧州の市場はオレンジを中心に過熱している」と観察しており、「南アフリカ産オレンジに対する関税が下がってきているので、多くの輸入業者は関税がかかっても積み込みを続けるよう弊社に言ってきた。しかし、オレンジはあまり残っていない」と話す。市場が過熱しているため船の遅延の影響は小さい。

(10~11月の)南アフリカ産オレンジに対するEUの関税は段階的に廃止され、来年は2.88%、最終年は1.44%となり、2026年に完全に撤廃される。12月からの関税は16%で維持される。(一部省略しました。)

執筆者: キャロライズ・ヤンセン